

## 成果発表会報告

### 播種して踏む！麦後作（むぎあとさく）で取り組める水稲乾田直播 平成29年度農研機構「暖地水田営農システム」研究成果発表会 報告

農家の高齢化に伴う担い手への農地の集積とそれによる大規模化は、北部九州の水田二毛作地域でも例外ではなく、省力化技術の開発を必要としています。水田作では、水稲の種籾を直接水田に播種する直播栽培技術の導入が育苗と田植えをしない省力技術として期待されています。直播には代かき後に播種する湛水直播と、水を張らない乾田直播があり、九州沖縄農業研究センターでは、将来の大規模化に不可欠な技術として乾田直播体系の研究を進めています。その体系において解決すべき課題として、①麦の収穫後から水稲の播種を行うまでの期間が短い、②梅雨に向かう時期で天候が不安定であることから乾田直播体系の効率化を図ること、③乾田直播した水田からの漏水防止技術の開発が挙げられます。私たちは、研究プロジェクト「暖地における高収益水田営農システムの実現に向けた技術体系の確立（略称：暖地水田営農システム）」において、各課題の問題解決に取り組んでいます。乾田直播体系の研究の中で、開発した振動ローラを利用する漏水防止技術が現地試験で有効性を実証できたことから、平成30年3月15日（木）にレソラ NTT 夢天神ホール（福岡市）において研究成果発表会を開催致しました。当日は、およそ60名の農家・生産法人に加えて農業団体、公立の機関、企業などから合計200名を

超える方々に参加をいただきました。発表会では、まず、新たに乾田直播に取り組み始める生産者の方から新技術への期待について講演をいただき、乾田での播種技術（表層散播）、播種後の振動ローラ鎮圧による漏水防止、表層散播の収量性、雑草防除技術、品種の紹介、営農メリット、普及指導センターでの取り組みを紹介し、乾田直播に取り組まれている生産者を交えて総合討論を行いました。技術紹介、総合討論の双方で、既に乾田直播をされている方、これから始めようとしている方から多数の御質問と御意見をいただきました。意見はローラによる鎮圧のタイミング、乾田直播に適した土壌、多収のための施肥、雑草防除のタイミング、圃場の均平の取り方など具体的なもので、乾田直播技術への生産者の方々の関心の高さと期待の大きさがうかがわれました。さらに、乾田直播することで、水稲後の圃場の乾きが良くなるようだ、という今後の研究テーマの示唆となる御意見もいただきました。終了後に御記入いただいたアンケートでは成果発表会の継続の希望をいただいています。今後は、研究をさらに進めて現地実証を通じた開発体系の一層の普及に努めて行きたいと考えています。

【水田作研究領域長 入来規雄】



研究成果紹介の様子



総合討論の様子

（発表者はフロアで受け答えしています）